

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601218		
法人名	株式会社 WELL		
事業所名	グループホーム しらゆり 1F		
所在地	名古屋市天白区島田黒石716番地の4		
自己評価作成日	平成24年9月5日	評価結果市町村受理日	平成24年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成24年9月22日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活が本人中心で安全に行えるよう行っています。季節の行事も行い、散歩にて出来るだけ外に毎日出て頂けるよう取り組んでいます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族からの意見や要望には話し合い検討や実行したりして、前向きな姿勢が窺える。外食に行く機会は設けていないが、利用者や家族の意見を取り入れて、バラエティにとんだバランスの良い食事を提供している。また、体操や風船パレーなど行ない利用者の筋力低下予防に努めている。他に日中に足浴を毎日実行して利用者から喜ばれている。地域との関わりを持つ機会が少ないが、今後は民生委員や町内会長などに声をかけて、協力を得ることを考えている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は全てのスタッフに周知しており、理念を基にして実践につなげている。	「自由でゆっくりとゆっくりと」の理念のもと利用者のペースでゆっくりと好きなように生活してもらうよう心がけている。職員間で話し合い、個人を尊重してその人に合わせたケアを実践するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩の際あいさつをし会話の機会を持つよう努めている。初詣 花見 盆踊り等近所へ出かけている	天気の良い日は散歩に出かけて、近所の人と会えば挨拶を交わしている。原中学校から福祉体験として来訪があり、レクリエーションを行ない、利用者とのふれあいの場があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に定期的に発信する機会は設けていないが、見学に来られる方や電話で問い合わせなど理解していただけるよう対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見はスタッフで検討し随時反映しており、次回会議にて報告をしている。反省点、改善点など話し合い、サービスの向上に努めている	運営推進会議は年6回行なわれている。利用者の状況報告や前回出された意見や要望に対する報告など行ない、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	6回は行なわれているが、参加者が少ないので、今後は町内会長や民生委員などに協力を求められることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡を密にとっているとは言えないが、法改正もあり、連絡する機会が多い。	生活保護の利用者が入居したこともあり、区役所に書類を持参したり、わからないことを聞く機会が増えた。市主催の研修にはなるべく参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は行っている。身体拘束に関して厳しく指導しており、徹底したケアを行っている。	安全のため家族にも了承を得て、施錠を行なっている。折にふれ、ケアの中で何が身体拘束にあたるかを話し合っている。	施錠していることが、身体拘束になることを理解できていない職員もいるので、定期的な勉強会を続けられることを望む。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的にミーティングを行いその中で高齢者虐待防止関連法と言う事ではないが勉強会を行っている 言葉使いには十分注意し、無理な介助を行わない様注意し行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、勉強の場を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面にし全文を読み疑問点をお聞きして理解、納得していただけるようしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に御家族と利用者様と現状等説明し、意見をお聞きしている。	家族の来訪の折には必ず声をかけ、利用者の日頃の様子を話している。運営推進会議に出席した家族からの意見や要望は次の会議までには返答するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議の中で機会は設けており、常に意見は聞くよう努めている	フロア会議や全体会議などでは職員は意見を言いやすい雰囲気である。職員より飲むのが苦手な利用者のためにポカリゼリーを作ったらどうかとの意見があり、今ではおやつの時にも食べている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意欲や熱意を維持しやりがいを持って就業出来るよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修は可能な限り受講している。内部研修は可能な限り行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で交流はあるが定期的な勉強会は行っていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴を第一に考え努めている。自己表現をすることが難しい場合も寄り添う介護にて、安心して生活できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活歴、不安 困っている事 要望等しっかり聞き、信頼関係を構築できるよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかり話を聞き対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行動を共有し共に生活する事に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と本人との時間を大切にし、入所中で御家族に知り得ない身体的な部分や日常生活の様子等伝え本人、家族意向を聞き支えていくよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで行っていた病院 美容院等本人や御家族の意向を聞き支援している	入居前に行っていた美容院や病院に家族と出かけたり、知人が訪ねてくる人もいる。今までの関係継続が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者とふれあいながら 安全に生活できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ相談 支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時間をかけ話をしっかり聞く、表情を見る 御家族に聞くなどしている。月1回はミーティングを開き個人に対して検討している	利用者の生活歴を大事にしながら日々のかかわりのなかで、コミュニケーションを取り希望や意向の確認を取っている。意思疎通が困難な場合は行動や表情を見て感じることで、意向の把握が汲み取れるように努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人 家族 福祉関係者に話を聞き生活歴の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り 定時のバイタルチェックにて心身状態の把握に努め 嗜好 趣味等を踏まえ過ぎて頂きADL 性格等把握に努める		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時等に御家族に現状を話し本人 家族の意向を聞き 本人の現状を踏まえ介護計画の作成に努める	事前に利用者の家族、協力医から意見や意向を伺い、月1回のミーティング時に職員間で話し合い、4ヶ月毎に利用者の現状を踏まえて介護計画の作成が行われている。状態変化が見られる時には、随時見直しの検討もされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや連絡ノートを作り、活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安全安楽に生活していただく為に柔軟な介助に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は活用できていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	過去の医療機関との関係が切れない様通院介助し、家族 医療との連携を支援している	月に2回の往診が行われている。協力医と事業所の関係も良く、専門医の受診が必要な場合は紹介状を貰って職員が付き添っている。協力医とかかりつけ医の連携は職員を通して出来ているので安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護用 看護用の連絡ノートを作り情報を共有し支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に医療機関へ行き 医師 看護師との連絡・調整に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族 ドクターと相談し支援に取り組む	事業所は利用者家族から意向を聞き、協力医と共に終末期に向けて事業所として対応し得る最大のケアについて説明している。職員は看取り、終末期の対応の仕方の研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救急救命の講習を消防署職員に来て頂き受けており、修了証の交付も受けている。定期的な内部研修は行えてはいない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し周知している。	日本報知器の会社の立会いのもと、年に2回消火器の説明を受けながら避難訓練をおこなっている。職員は避難場所や避難方法を把握し、瞬時に災害時につけつけられることが出来るように緊急連絡網もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	挨拶は終日しっかりと行い自尊心を気づけない様注意し対応をしている	利用者を人生の先輩として尊敬し、言葉遣いには充分気を付けている。トイレの誘導などさり気なく行ったり、利用者の嫌がる事を職員間で話し合い理解して共通意識を持って対応出来るように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での自己決定はして頂けるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定をして頂けるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日中と夜の服装、個人の嗜好にも合うよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、出来る限り一緒に行っている	利用者の残存機能を活かせるようにテーブル拭き、箸並べ食器の片付けなど行っている。献立は利用者の好みの物が取り上げられている事が多い。誕生日会やおやつ作り際にはホットプレートを使って職員と一緒に楽しく作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を時間で記録し確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ADLを把握し出来る限り自立できるよう支援している	職員は利用者個々の排泄パターンを把握し、自立している人でも気を付けており、排泄チェック表を確認しながら個々に声掛けをして、失禁を防げるように誘導して自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保 個人に合わせ、同じ時間に便座に座って頂く 体操など行い排泄に繋がるよう促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は曜日を決め入浴していただいています	入浴は曜日を決めて午後より入浴している。昼間足浴を毎日行っているおかげで利用者の血行不慮がマッサージ効果により改善されているようである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごして頂き、夜はゆっくり休まれるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにお薬情報があり確認は常に行っている。症状の変化についても常に確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自身で決定する事が難しい場合もあるがメリハリのある生活になるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば出来る限り対応するよう努めているが地域の方と出掛ける機会はほとんどない。	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるように全員参加で日常的に1日一回近所に散歩に出掛けている。家族と一緒に喫茶店に行ったり、自宅に帰る利用者もみられる。	日常的に散歩は毎日出掛けているが、それ以外の外出が少ない。事業所としての外出や一人ひとりが希望に沿った外出を楽しめるように検討し、取り組んでいくことを希望する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理されている場合もあるが事業所で管理しておりあえて使って頂くような支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さままで生活空間の飾り付けをし季節を感じられる様工夫している、リスクマネージメントを行い、安全に過ごせるよう努めている	リビングは太陽の光が差し込み明るく、利用者は大きいソファでゆっくりくつろぐことが出来ている。入り口の網戸の設置の完了により、各フロアー風通しが良い環境になっている。季節感を採り入れる為に五月の鯉のぼり、七夕の笹飾りなど工夫して飾られていたようである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にある、いつもの落ち着いた場所で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にある寝具やタンス 他の物品もなるべく今まで使っていた物を持ってきていただき、これまでと同じような生活をして頂けるよう努めている	持ち込みの荷物に制限は無く、全体にスッキリとした部屋が多いが、テレビ、桐タンス、籐のソファなど馴染みの物が置いてあったり、塗り絵などが部屋に飾られて利用者の居心地の良さが伺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行える事は行って頂く 安全に自立した生活出来るよう工夫している		

### 外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2371601218
事業所名	グループホームしらゆり

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 自治会に加入しており、夏祭りなどの地域行事に参加している。初詣や花見に近所の神社や公園に出かけている。原中学校より福祉体験として子供たちが来訪し、楽しいふれあいの場を持つことができた。今後も継続される予定である。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 年6回開催され、いきいき支援センター職員の参加も得られている。会議の場で、施設しているためホーム内が暑いとの意見が出て、風通し良くするため網戸を入口に取り付けて、涼しくなると好評を得ている。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 法改正があったり、生活保護の利用者の件でわからないことを聞く機会が多くあった。また、市主催の研修（消防についてや法的手続きに関してなど）には参加している。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 家族会は年1回、敬老会のときに合わせて行なっている。家族から出た意見や要望は、すぐ出来ることは実行したり、検討して必ず返答をするように心がけている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。		○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	×	○	○		

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。